

Y K G

Yutaka Kikutake Gallery

6-6-9 2F Roppongi, Minato-ku, Tokyo 106-0032, Japan
Tel: +81 (0)3 6447 0500 Mail: info@ykgallery.com
www.ykgallery.com



東海現代陶芸
思考する新世代展

CONTEMPORARY CERAMICS IN TOKAI — THINKING NEW GENERATION —

新里明士 (岐阜県:1977年生まれ)

新里は、「非情のオブジェ 現代工芸の11人」(東京国立近代美術館工芸館 2004)をはじめとして、これまでにいくつもの企画展に招待出品されるなど、よく知られた陶芸家の一人である。新里は大学時代にやきものの魅力に触れ、大学を中退して多治見市陶磁器意匠研究所に入所した。そこから新里は「光器」と呼ぶ、新里の代名詞ともいえる蛍手を本格的に手掛けていくのである。蛍手は成形後の器形にあえて孔を開け、釉薬でその孔をふさぐ技法である。そのために外光との関係により、釉薬でふさがれた孔から蛍の光のような幽玄な光が漏れることになる。加えて新里の光器は、蛍手を通じて光を漏らすだけでなく、薄く轆轤挽きされた器形が磁器の透光性という性質によって光を透かしてもいる。つまり、異なる性質の光が重複することで作品が成立し、その作品が外光に包まれたときにさらなる光の重奏が生まれるのである。近代以降、瀬戸や美濃地方において蛍手の技法は安物の食器等に用いられるものであった。しかし新里は、偶然とはいえ、

14

この見向きされることなく存在していた蛍手の技法を、光という存在へと意識を向けることで現代の装飾技法へとその価値を転換させたのである。

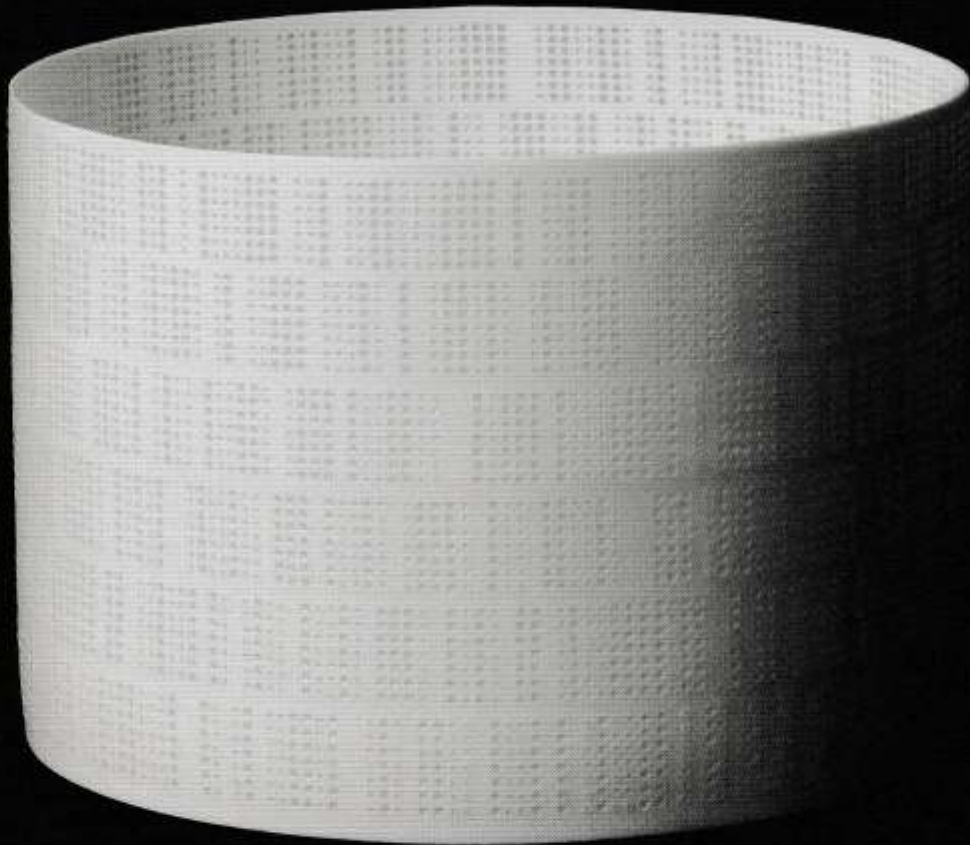
Y K G

Yutaka Kikutake Gallery

6-6-9 2F Roppongi, Minato-ku, Tokyo 106-0032, Japan
Tel: +81 (0)3 6447 0500 Mail: info@ykgallery.com
www.ykgallery.com

NIISATO Akio

新里明士





12-1 (P62)

—

光器

Light vessel

26.1×26.4×19.5cm

2011

—

12-2 (P63)

—

黒茶碗

Black tea bowl

11.9×11.1×8.6cm

2011

—

光器

Light vessel

6.0×5.8×6.9cm

2011

制作について「光器」の場合

光の点を穿つという行為によって器の形を、

より明確に意識できると考えています。

光の点の意匠と器の形状は制作を始めた段階では

どちらかが決まっているわけではなく、

それまで制作してきたものの延長線上にその時作るものがあります。

「光器」では、器という形自体はとても抽象的な形態であるという意識を常に頭の片隅に置きながら制作することになっています。

Y K G

Yutaka Kikutake Gallery

6-6-9 2F Roppongi, Minato-ku, Tokyo 106-0032, Japan
Tel: +81 (0)3 6447 0500 Mail: info@ykgallery.com
www.ykgallery.com



12-3
—
陶器
Light vessel
43.0x35.0x11.0cm
2011

新里明士 | NIISATO Akiyo

1977 千葉県生まれ
2001 多治見市陶磁器意匠研究所修了
現在 岐阜県土岐市にて制作

[グループ展・公募展等]

- 2002 国際陶磁器展美濃'02 (2005, 2008年も) (岐阜)
伊丹国際クラフト展 (兵庫)
2003 朝日陶芸展 (愛知)
2004 台湾陶磁器ビエンナーレ (2008年も) (台湾)
"非情のオブジェ" 東京国立近代美術館工芸館 (東京)
"MINO CERAMICS NOW"
岐阜県現代陶芸美術館 (岐阜)
2008 SOFA Chicago (シカゴ、アメリカ)
"茶陶 - 造形と意匠にみる現在性"
ギャラリーヴォイス (岐阜)
菊池ビエンナーレ (2009年も) (東京)
韓国陶芸ビエンナーレ (韓国)
ファエンツァ国際陶芸展 (2007年も)
(ファエンツァ、イタリア)
カルージュ陶芸展 (カルージュ、スイス)
シドニー・マイヤー基金国際陶芸展
(シェパートン、オーストラリア)
2009 SOFA New York (ニューヨーク、アメリカ)
2010 "現代工芸への視点-茶事をめぐって"
東京国立近代美術館工芸館 (東京)
金沢・世界工芸トリエンナーレ (石川)

[受賞]

- 2005 イタリア・ファエンツァ国際陶芸展 新人賞
2008 パラミタ陶芸大賞展 大賞
国際陶磁器展美濃'08 審査員特別賞
2009 菊池ビエンナーレ 奨励賞

[ワークショップなど]

- 2008 東洋陶磁学会 講演「磁器の表現と自作について」
(東京国立近代美術館 講堂、東京)
2009 ハーバード大学 アートセンター セラミックプログラム
ワークショップ&スライドレクチャー (ボストン、アメリカ)
リーチ工房 ワークショップ (セントアイブス、イギリス)
ザクリ美術館 滞在制作・ワークショップ
(ファエンツァ、イタリア)